

平成 23 年 5 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520207
 研究課題名（和文） 現代イスラム系英語児童文学の現状と、作品に見るイスラム・非イスラム世界のかかわり
 研究課題名（英文） Contemporary Islamic Children's Literature in English: Status Quo and Literary Descriptions of Islamic and non-Islamic Worlds
 研究代表者
 大藪 加奈 (OYABU KANA)
 金沢大学・外国語教育研究センター・教授
 研究者番号：30283146

研究成果の概要（和文）：現代イスラム系英語児童文学の英国における出版動向を調べ、イスラム世界と非イスラム世界がどのように描写されているか、アーミッシュのキリスト教児童文学と比較分析した。宗教を中心とした世界観（宗教活動の頻出、宗教用語や神の存在への言及）や、家族・家事に関する描写が多いなどの類似点はあるが、アーミッシュ児童文学では逸脱や宗教からの一時的な離脱が頻繁に取り上げられているのに対し、イスラム児童文学では非イスラム社会との葛藤が主な主題となっているなどの相違点がある事が分かった。

研究成果の概要（英文） This is a research into contemporary Islamic children's literature in English. This research has focused on two areas: the publication and reception of Islamic children's literature in Britain, and the literary analysis of the original Islam-themed stories published by Islamic Foundation (UK). The emphasis was placed at the treatment of the Islamic and non-Islamic worlds in books aimed for school-age children. Amish children's literature has also been studied in order to compare Islam-themed children's stories with that of Christian-themed stories. The research has found some similarities such as recurrent descriptions of religious activities, mentioning of God's existence, and strong emphasis on family relationships and house chores. However, unlike Amish stories which include transgression as an important part of children's experiences, Islam-themed stories place stronger emphasis on conflicts and tensions created by the relationship between Islamic and non-Islamic worlds rather than showing their main characters transgressing into anti-religious behaviours.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：英語文学

科研費の分科・細目：文学 ・ 英米・英語圏文学

キーワード：イスラム児童文学 イギリス 児童文学 英語文学 宗教と文学

1. 研究開始当初の背景

21世紀に入り、イスラム系文化背景を持つイギリス人のイスラム回帰が顕著になり、同時に彼らの子女教育や児童文化の受容伝達形態が従来の伝統的イギリス社会のそれに近づくにつれて、一見矛盾する現象のように見えるイスラム系英語創作児童文学が登場し、商業的にも文化的にも成功して、従来のイギリス児童教育文学と同じような位置を在英イスラム系社会で占めるようになった。この現象のおもしろさにいち早く注目し、特に非イスラム世界とイスラム系世界のかかわりが顕著な就学児童対象の読み物を詳しく分析しようとしている点が、本研究の独創的なところである。

この分野に関する研究は書評や図書目録（例：Judith Lechner *The World of Arab and Muslim Children in Children's Literature*）のほかはほとんど存在しなかったが、Torsten Janson がその主要著書 *Your Cradle is Green—The Islamic Foundation & the Call to Islam in Children's Literature* で、イギリス在住のイスラム系読者を対象とした Islamic Foundation の絵本を研究し、それらの絵本が、現代の非イスラム世界に生きる若い読者を疎外することなくイスラム教の教義に導く方策について、分析している。

大藪の研究は、この先行研究に基づき、その成果を一步進めようとするもので、Janson が扱った未就学児対象の絵本ではなく、イギリスの国語教科書と同形態で出版されている、薄く一冊ずつ独立した読本（対象年齢 7 歳—10 歳）を分析する。

2. 研究の目的

本研究の具体的な目的は、イギリスにおけるイスラム系児童英語文学の現状を、出版作品数、作品の形態、対象年齢、図書館・学校等での使用状況、読者や教育関係者へのアンケートなどの調査を行うことによって把握すること、また、物語の内容を分析し、キリスト教系児童文学と比較することによって、イスラム系児童文学の特徴を明らかにすること、である。就学年齢に達した児童対象の文学では、読者や登場人物を取り巻く非イスラム社会とのかかわり方が、大きな主題となっている。そこで、その部分に焦点をあてて研究を行った。

3. 研究の方法

イギリスの国語教科書と同形態で出版されている、薄く一冊ずつ独立した読本（対象年齢 7 歳—10 歳）を分析した。先行研究（Jason）では、文章よりも絵の描かれ方が重要な研究材料であったが、大藪は文章で描かれた作中の状況設定や登場人物の心理描写に焦点をあてた。

まず、イギリスにおけるイスラム系英語児童文学の現状についての調査を実施した。具体的には、出版作品数、作品の形態、対象年齢などを調べた。特に 7 歳から 10 歳を対象とした、薄い国語読本型の読み物については、図書館・学校等での使用状況の調査、読者や教育関係者へのアンケート調査などを行うことによって、より詳しい受容状況を把握した。同時に、文献資料として収集した作品については、作中に表れる非イスラム世界からの圧力がどのような形をとっているか検証した。

次に、上記の国語読本型の読み物の内容を

分析した。ここでは特に、登場人物の非イスラム社会とのかかわりを通して、これらの作品が読者の非イスラム社会との葛藤をどのように扱っているか、イスラム的世界への誘いがどのようにされているか、非イスラム世界との対立の構造はあるか、などについて調べた。また、同じような形態のキリスト教的児童文学（アーミッシュの児童文学）との比較研究を行うことによって、現代イスラム系英語児童文学の特徴を明らかにした。

4. 研究成果

出版状況の研究については、コーランの物語や宗教に関するマニュアルや説明本よりも現代を舞台とした創作児童文学が多い事がわかった。また、出版社は Islamic Foundation が最も多く出版しているが、その他の出版社もこの分野の本を扱っている事がわかった。図書館では、異文化児童文学専門の司書やいるところではその係の人が選択しており、またブラッドフォードにある異文化児童文学を取り扱っている業者から推薦リストを入手して取り寄せているなど、イスラムを含む異文化児童文学を扱うシステムが確立している事がわかった。これらについての研究成果は第 18 回国際児童文学学会世界大会で発表した。

イスラム児童文学作品の内容分析としては、主に対象年齢 12 歳ぐらいまでのイスラム系創作文学と、コーランの中に現れる物語やイスラム教の歴史上重要な人物の伝記について、登場人物、場面設定、扱われているテーマや項目（学校でのイジメなど非イスラム社会との関係、世俗的満足と精神的満足の間の葛藤、近親の死、自然との共生、友人関係、信仰や宗教行事の意味や意義など）、作品の長さ、作品の構成や展開などの分析項目

について、精読しながら整理した。

非イスラム児童文学と比べると、魔法・妖精等や冒険に関する記述はほとんどなく（魔法・妖精は皆無）、日常生活を舞台とし、祈や断食などの宗教的活動が生活の一部として描かれているものが多い。イスラム・非イスラム世界の力関係としては、親や先生などが最終的に社会秩序を守る構造になっているものが多く、神を頂点とする宗教的世界観が反映されている。非イスラム世界は、主にモスレムでない登場人物の形であらわされ、無関心、敵対、容認、親密（友人）というカテゴリーの他に存在として現れない場合もあった。

キリスト教児童文学との比較として、アメリカのアーミッシュの人々の家庭雑誌 *Family Life* 中の子供用ページに掲載されている児童文学との比較研究を行った。

イスラム児童文学とアーミッシュ児童文学では、宗教を中心とした世界観（宗教活動の頻出、宗教用語や神の存在への言及）があり、家族との強いかかわりや家事に関する描写が多いなどの類似点があるが、アーミッシュ児童文学では逸脱や宗教からの一時的な離脱が頻繁に取り上げられているのに対して、イスラム児童文学では逸脱よりも非イスラム社会との葛藤が主な主題となっているなどの相違点がある事が分かった。これらの成果は、詳細な分析と共に『言語文化論叢』の 2 編の論文として発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. Oyabu, Kana, Kumi Tsukahara, Chiho Oyabu, “Recurrent Themes in Amish Children’s Literature” 言語文化論叢 15 (2011) 127–138 査読無

2. Oyabu, Kana “The Treatment of Muslim and Other Characters in Muslim Children’s Literature in English” 言語文化論叢 14 (2010) 121–142 査読無

[学会発表] (計5件)

1. Oyabu, Kana “Transgression as Rumspringa theme in Amish Children’s Literature” 20th IRSCL Congress (国際児童文学学会世界大会), 2011年7月7日、Queenslan University of Technology (ブリスベン、オーストラリア)

2. Oyabu, Kana “Stories for Amish Children: Analysing the Themes of Children’s Corner Stories in *Family Life*” 日本英文学会第62回中部支部大会、2010年10月16日、金沢大学(石川県)

3. Oyabu, Kana “Islamic Children’s Literature as an Alternative” WOCMES2010 (国際中東学会世界大会), 2010年7月21日、バルセロナ自治大学(バルセロナ、スペイン)

4. Oyabu, Kana “The Representation of Non-Moslem Worlds in Contemporary Islamic Children’s Literature in English” 日本英文学会第61回中部支部大会、2009年10月17日、愛知学院大学(愛知県)

5. Oyabu, Kana “Power Relationship in C

ontemporary Islamic Children’s Literature in English” 18th IRSCL Congress (国際児童文学学会世界大会), 2008年8月27日 国立京都国際会館(京都府)

[図書] (計1件)

大藪加奈他 風行社『国際学への扉——異文化との共生に向けて』(2008年) 154頁–167頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大藪 加奈 (OYABU KANA)

金沢大学・外国語教育研究センター・教授
研究者番号: 30283146